

群馬県立嬭恋高等学校 学校評価一覧表 (令和6年度版)

(別紙様式)

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等			
I 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	3コース制・連携型中高一貫教育・スケート全国募集等が嬭恋高校の特色として生かされていると考える生徒・保護者・職員が80%以上である。	・「魅力化プロジェクト」の活動を中心に、将来の嬭恋高校を見据えた内部改革と外部への情報発信を行う。 ・中高一貫教育推進委員会により、交流授業を中心とした各教科間の連携や、単発授業での交流、委員会活動や部活動での連携の充実を図る。	A	A	A	本校の3コース制の教育、連携型中高一貫教育、スケート全国募集等が嬭恋高校の特色として活かされていると考える職員は100%、生徒は85%、保護者は97%であった。 次年度においては2コース制に改編する他、全国募集の対象も拡充するため、より一層の魅力化、特色化をはかり、広く発信を行いたい。	・嬭高らしさを前面に出した教育活動が地域の人々や小中学生にも理解されていると思う。先生方と生徒の密接な関係もとれている。今後も続けてもらいたい。 ・生徒、保護者、職員共に高評価となっている点が素晴らしく、皆が同じ方向に向かって特色ある学校づくりに取り組まれていることが感じられた。 ・アンケートの採り方に一工夫を。 ・地元の中学生にアピールし、中学生が嬭高に入学を希望するように。 ・先生方の授業がおもしろいと興味を持っている生徒がいる。
		授業アンケートが授業力向上に役立っていると感じている職員・生徒が80%以上である。	・授業アンケートの結果の分析をもとに、個々の教員の授業改善や教科全体の指導力向上につなげる。	A	B	B	授業アンケートが授業力向上に役立っていると感じている職員は81%、生徒は63%であった。生徒の受け止めがB評価と課題である。アンケート項目の見直しやアンケート実施の形骸化を防ぐ取組を実施したい。	
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	生徒の実態を踏まえた学習指導に生徒の70%以上が満足している。	・基礎学力の定着だけでなく、成績上位層の能力も伸ばす。 ・学習端末や学習アプリの活用により、個別最適化した学びを促す。	A	A	A	本校の学習指導に対し、満足していると回答した生徒は83%であった。また、職員による自己評価も高い水準で生徒の実態に合わせた個別最適化指導が実施できている。	・個を伸ばす指導がなされ、生徒の自己肯定感も高められていると思う。 ・主体的に取り組んだ成果を自分の言葉で表現できる力を育てていただきたい。 ・自分の得意分野の各種検定に取り組むなど、主体的に取り組む意欲を大切にしたい。
		総合的な探究の時間に、意欲的に取り組んだと自己評価している生徒が70%以上である。	・各学年で生徒に身に付けさせたい能力を明確にした年間計画を立てる。 ・事前指導・事後指導を充実させ、行事のねらいが生徒に伝わるようにする。	A	A	A	総合的な探究の時間に対し、意欲的に取り組むことができたと回答した生徒は88%であった。また、生徒がその状態にあると判断している保護者は97%、職員も88%と高水準であった。今後の嬭恋高校はこうした探究活動を教育の軸としていくため、さらに充実させたい。	
III 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	幅広い選択科目を設定した教育課程や習熟度別授業・少人数授業・TT授業等に、生徒、保護者の80%以上が満足している。	・教科の枠を超えた教員同士の授業観察と授業方法の情報交換を推進する。 ・ICTの活用や「主体的対話的な深い学び」を推進し、授業がより充実した双方向的な活動となるよう改善を図る。	A	A	A	学力の定着に対する取組として、習熟度別授業の実施やICT機器の活用などを実施している。そうした取組に満足している生徒は98%、保護者は100%であった。また、職員による自己評価も高水準であった。	各種検定に向けて主体的に取り組む生徒が60%以上である。
		各検定に向けて主体的に取り組む生徒が60%以上である。	・日本漢字能力検定、実用英語技能検定、実用数学技能検定、全商各種検定試験等に向けての指導を考え、工夫して生徒の興味関心を高める。	A	A	A	各種検定に向けて主体的に取り組んでいると感じる生徒は67%であった。また、そうした主体性が見られると感じる保護者は65%、職員は88%であった。目標値は上回っているものの、生徒・保護者の受け止め方と職員の受け止め方にやや乖離が見られる。現在では、検定を取得した生徒のコメントや取得率を廊下に掲示するなどして、生徒の意欲を高めようとする工夫が見られるため、そうした取組を広く宣伝し、生徒の主体性を助長したい。	
IV 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	毎日の全校一斉清掃により校内美化に取り組み、毎日しっかり取り組んでいると感じている生徒が90%以上である。	・校内の環境美化や清掃に対する意識を高め、全校清掃に生徒・教員とも積極的に取り組む。 ・日頃から整理整頓を呼び掛け、汚さない・散らかさない生活を生徒に心掛けさせる。	B	A	A	生徒が毎日の校内清掃活動にしっかりと取り組んでいると感じる職員は88%、生徒は94%、保護者は100%であった。 生活アンケートなどがいじめの防止や解決に役立っていると感じる職員は94%、生徒は70%、保護者は89%であった。	・「職員と生徒の印象の差異がある」ことを興味深く拝見した。私自身も、若い世代とのやりとりにおけるゴールの共有、共通認識を図ることの必要性を再認識する良い機会となった。 ・生徒面談で先生の話や聞き、生徒自身の自分の考えや思いを上手に伝える表現力、つまりコミュニケーション力の向上に一層力を入れてほしい。 ・普段から生徒が自分の気持ちを十分に伝えられているかを確かめながら、関係性を作ってもらいたい。 ・挨拶は社会においては基本であり、生徒から先生からどちらでもなく会えば挨拶することを大切にしたい。
		いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に進めていると認識している生徒が90%以上である。	・月1回以上の生活アンケート、生徒面談、職員間の情報交換によりいじめの防止や早期発見に努める。 ・授業や学校行事の中で、生徒の人間関係を構築する。 ・保護者との連絡を密にし、連携を強化する。	A	B	B	生徒が自ら進んで挨拶をしていると感じる職員は81%、生徒は98%、保護者は97%であった。	
		あいさつの励行を呼び掛け、自分から進んで挨拶する生徒が90%以上である。	・集団の人間関係を円滑にするために、自ら進んであいさつを行うなど、社会で通用するマナーを身に付けさせる。	B	A	A	上記の3項目について、職員が感じる印象と生徒が抱く印象の間に差異が見受けられた。清掃活動や挨拶の励行に関して、教員が求めるものと生徒の実態にどのような意識の違いがあるのかを意識しながら指導にあたる必要があると思われる。また、いじめの防止に関して、一人ひとりの話を傾聴し、親身になって指導にあたっていく姿勢が肝要であると思われる。	
V 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	中学生、保護者及び、地域の方々に本校の取組について理解してもらうために、学校の様子を積極的に発信していると考えられる職員・保護者が80%以上である。	・YouTube「つまちゃん」及び学校Instagramによる積極的な情報発信を行う。 ・嬭恋村の広報誌である「広報つまこい」に本校の広報ページ「つま高報」を設定してもらい、毎月、情報発信を行う。 ・吾妻郡内を中心とした中学校を訪問し、本校の取組について理解を深めてもらう。	A	A	A	学校の様子を積極的に発信していると考えられる職員は81%、そうした取組が十分な成果をあげていると感じる生徒は79%、保護者は97%であった。今年度は本校魅力化プロジェクトの取組により、これまでの広報活動を充実させたり、新たな広報活動が誕生したりと情報発信において充実している様子が見られた。今後は、こうした広報活動に生徒の意見も取り入れながらさらに魅力ある情報発信をしていきたい。	・あらゆるメディアを活用した広報活動が素晴らしいと思う。 ・嬭恋高校が地域の中学生からどのように思われているかをアンケートしてみるのもよい。 ・図書館については、村の新しい施設(サウラ嬭恋)との連携を図り、村民にも利用が図られるように。 ・授業外の課外活動でも地域交流の機会を。 ・広報等に掲載し、校内の情報発信はされている。
		図書館や体育館などの学校の施設の開放が、年間100日以上である。	・図書館の地域開放を行っていることを地域の方に知ってもらう。 ・多くの方が利用しやすい時間帯や曜日の設定をする。	A	/	A	本校は図書館、体育館、柔剣道場を地域開放している。今年度は図書館が27日、柔剣道場が100回(11月末現在)の利用状況であり、開かれた学校づくりが順調に進んでいる様子が見られる。	
VI 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	1人一台端末やプロジェクターなどのICT機器を活用した授業が全体の60%以上である。	・一人一台端末が十分に活用できるよう校内の環境を整備したり、生徒の家庭での充電を励行したりする。 ・ICT機器を活用した授業の情報交換を行う。	A	A	A	一人一台端末(chromebook等)を始め、各種ICT機器を活用した指導が充実していると感じる生徒は94%、保護者は97%といずれも高水準である。また、今年度は定期考査等で電子採点システムを活用し、採点業務の改善に努めた。今後もこうしたICT機器を有効に活用しながら、授業改善や業務改善を図っていききたい。	・ICT機器の活用は十分にできている。
		各教科の定期考査でデジタル採点ツールを活用する機会を2回設定し、デジタルツールを活用できる職員が60%以上である。	・デジタル採点ツールの研修を行い、基本操作を身に付ける。 ・年内に2回、デジタル採点ツールによる採点を実施し、その是非を検討する機会を設ける。	A	/	A		